ル 3
3368
3

東京大學圖書館
藏書

和朝名勝畫圖卷之三目錄

明石濱
詩圖
藤山
布留の郡
詩圖
鹿浦
詩圖
長谷濱
戸隠瀧
詩圖
伊吾虞濤
淺沢沼
泉川
詩圖
深草山
長地絶橋
生田森
詩圖

ろ八門
號3368
巻3

早稲田大學圖書館
昭27.3.5
藏書

明石潟　播广

眺望

月見

塩干

新潟

伊勢 志摩
虞淵
俊英文
弘季

玉藻
かな
いろふる
海の

思根
松

萬代
まもる
みろ
年の
松
ぬん

白鷹　希世

越女休誇天下白　故人況比海東青

獵場日暮風吹雪

毛羽難分聞得鈴

なを意ハ天下よりの白さハ越女行のしろさハなりまてと誇れども白鷹にくらべてハ

中くらゐなるもの

そこらに鷹の中にてもとり海東青といふ逸物ハ鷹なるなりそれ鷹を君て獵に出ることをかるがゆへ

和よりて日ハ雪ふ風ふきく吹て白雪ふ高く月よりて鷹のゆくゑを知ることぬ

くれの声ふて鷹ハ知りうを知りこと

いろこと

澤沢
橋津
五条弘仲

雛山

大伴直扮

ひなえ

雛の

山の

夕暮

漫興　杜子美

腸断春江欲盡頭杖藜徐歩立芳洲顛狂柳絮随風舞輕薄桃花逐水流

訳えハ春江の風景あたんとするよたへ藜の杖をすがりて水中の洲にたゝずみ春江の盡しるを惜ミ春風の柳絮の風にまかせ舞ふハ桃花の流水を逐ふてゆくハけつくるなるもしらしひてせんのわらえといまし

夕陽　義堂

暮景桑榆可奈何麾回無復魯陽戈寺樓鐘與漁村笛一々催人白髪多

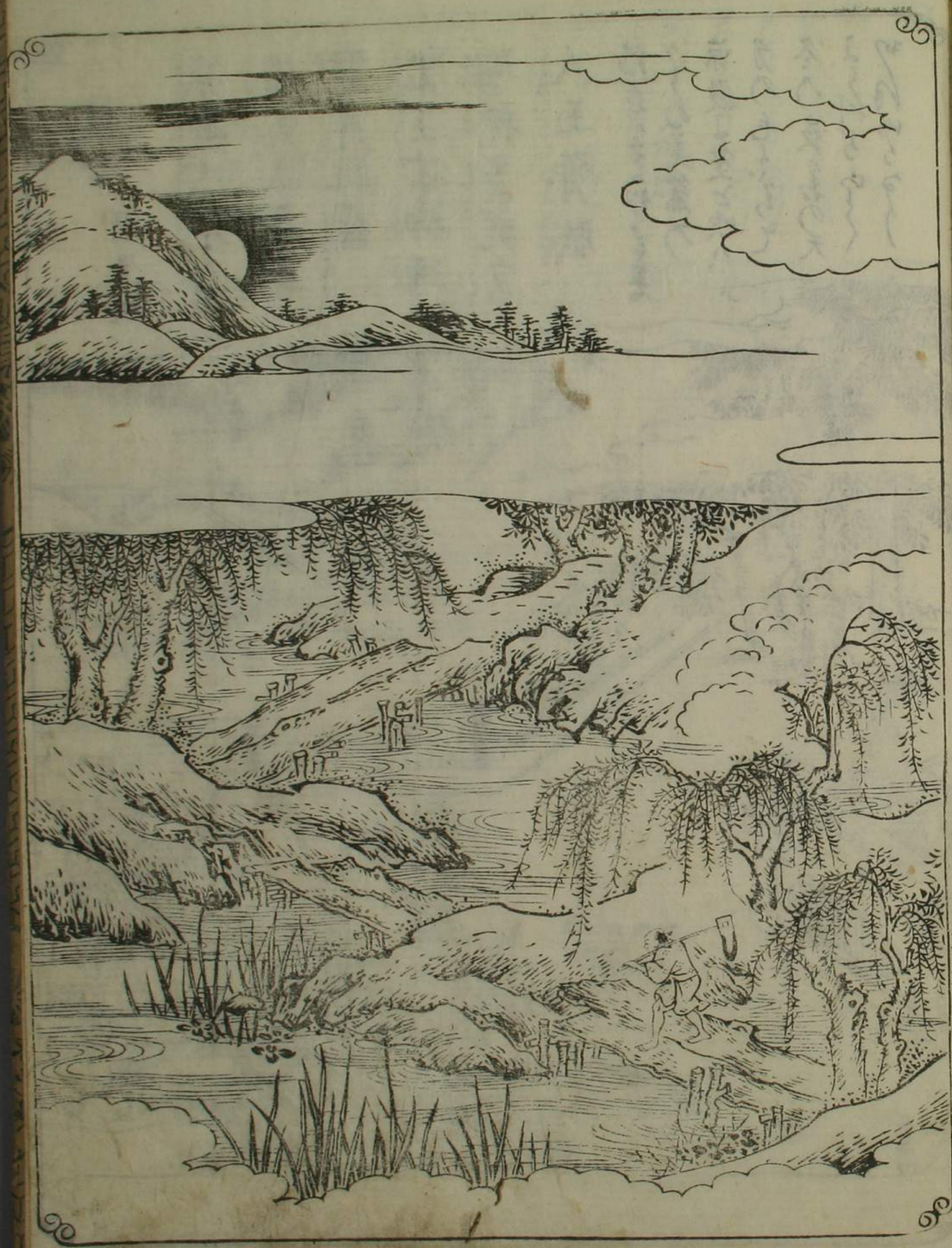
訳ハ夕陽よりれバひくて桑榆のまゝ日影ぞ入るを昔の魯陽ハ戈をもて麾ぎ返せ戈ゆ夕陽をかへしむ行ゆゝ寺くるハ入相の鐘とつこ漁村ハ笛を吹くて多く感慨を催ゆ白髪をかく

深草里歳
摂政太政大臣

深草の
里の
野の
草
里
かな
す

春来てハ
海人の
釣舟
あまの
はるかに
見やらむ

霧浦常陸
従三位雅家卿



相模

妓女　劉潛夫

涼殿吹笙霜滿天木犀花開月初圓
君王不御珊瑚枕多就宮人玉臂眠

結髮ハ宮かつらを云
うるぬ美麗の
涼殿ハ笙と吹ハ
分の毛うづて
冬の夜霜の天
よりもうつくし
ゆるゆる

ゆるゆる木犀の
花もうつくしく月
も十五夜の照るに
君王ハうんどの
枕をあそばされ
ど容顔美質の
宮女の臂を
まくらとなされ
て妓女の秋
霜と御覽な
うめとと
霜の嬌と
いまし給へ
詩

長良の濱
清元栄寿

栢林寺

即子元

溪上遥聞
精舍鐘泊
舟微徑度
深松青山齊
後雲猶在
畫出西南
四五峯

行き来ハ溪上をあ
よのりてゝろふ
徒のあるとやた
そこれのんゝか
ふゝ栢林寺

のかひのんとか
りて舟と岸よ
つるぎ微なる小
徑の松ゝやし
をゝをうて栢林
寺よりゝゝそ
徒ゝでゆいて
寺樓をなぐゝ
ゝれで青山が
ゝゝたよゝれて
をゝ〻ゝのゝう
ゝゝ山寺れ住
景を述ゝう
詩ゝう

戸毛瀧
山城
春水
東京後素

春の風
戸毛瀧の
瀧の
水若
ちる